



水 稻 管 理 情 報

早生収穫編

令和8年8月
JA志賀
能登南部営農推進協議会

「適期刈取り」・「適切な乾燥・調製」で品質向上！

1. 生育概況

- ・出穂以降の高温が続き、前年に比べ刈取適期は早まる予想です。
- ・刈り遅れに注意し、刈取計画の見直しを実施しましょう！

2. 登熟期の高温対策

【間断通水の徹底】

- ①乾かさない！ ▶3～5日間隔を目安に夕方に通水し、土壌の飽水状態を保つ。
- ②ずっと溜めない！ ▶気温の高い日中の湛水状態は避けること。
- ③早期落水しない！ ▶早期の落水は、未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水すること。

3. 刈取り時期の目安

【登熟積算気温からの刈取適期予測】

品種	R8出穂期	刈取適期	(参考) R7出穂期
ゆめみづほ	7/13～19	8/20～26	7/15～21

籾黄化率80%の
穂のイメージ



【刈り遅れ防止の徹底】

- ・ほ場によりばらつきが見受けられるため上記の刈取り時期は目安とし、『籾黄化率』を必ず確認した上で、適期収穫に努めて下さい。
- ・高温登熟年のため、籾黄化率80%から刈取を開始しましょう。
- ・刈取時水分の目安は、平均籾水分25～20%

【高温登熟年：籾の黄化程度による刈取適期の判断目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%
刈取適期	16～17 日後	13～14 日後	10～11 日後	7～8 日後	4～5 日後	1～2 日後	適期

高温登熟年は籾の黄化が一気に進む

収 穫 期 間

4. 刈取作業

【刈取り作業の注意点】

①刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去する。

- ・クサネムの種子（右の写真）は、ライスグレーダーで取り除けないため、異物混入で落等の原因となる。



クサネム種子(黒い粒: 左)

②コンバインと乾燥機の整備・清掃の徹底

- ・品種が切り替わる際は、掃除を徹底しましょう。コンバインは、中を開けて、受網や振動版、ストローク等、選別部の詰まりをこまめに清掃して下さい。

③刈り取った籾は、速やかに乾燥機へ張込む。

- ・刈取りから4時間以内に乾燥機へ張込み、通風しておくことで、ヤケ米の発生を防止できる。
- ・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、降雨直後などは無理に収穫を行わない。

※早期に倒伏した部分や早期に登熟した部分は、別刈り・別乾燥で調製する。

5. 乾燥・調製作業

【乾燥作業の注意点】 高温乾燥は避け、35℃以下で行うこと！

ヤケ米

生籾の長時間
貯留はしない！

胴割米

仕上げ乾燥は、ゆっくりと行
う。(毎時0.8%以下
の乾減率が最適)

過乾燥米

仕上げ水分は、14.5%～
15.0%とする。

高温登熟年は、適期収穫でも籾の水分にムラがあるため、「2段階燥法※」を用いましょう。

※籾水分18%程度で乾燥機を止め、5～8時間調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法

【調製作業の注意点】

①事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

- ・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるために、籾摺前に籾水分（14.5～15.0%）を確認しましょう。
- ・作業開始前だけでなく、作業中も籾摺りの程度をこまめに確認しましょう。
- ・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施して下さい。

②ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安。

- ・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなる。
- ・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換すること。

③ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

～農作業中の熱中症に気を付けましょう～

暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。

こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など、対策を行い日中の暑さに備えましょう！

